

令和8年度病害虫発生予報第7号（11月予報）概要表

令和8年10月27日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 麦類の播種前防除対策</u>		
(1) コムギなまぐさ黒穂病		
(2) 黒節病（オオムギ黒節病、コムギ黒節病）		
(3) 縞萎縮病		
(4) オオムギ斑葉病		
(5) シロトビムシ類		
<u>2 きゅうり（夏秋栽培）</u>		
(1) ベと病		多
(2) うどんこ病		並
(3) 褐斑病		多
(4) 退緑黄化病		並
(5) 黄化えそ病		やや少
(6) コナジラミ類		並
(7) アザミウマ類		並
<u>3 ブロッコリー</u>		
(1) ベと病		やや多
(2) ハスモンヨトウ		多
(3) シロイチモジヨトウ		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>4 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) さび病		並
(2) 黒斑病		やや多
(3) ベと病		並
(4) 軟腐病		やや多
(5) シロイチモジヨトウ		やや多
(6) ネギアザミウマ		やや多
(7) ネギハモグリバエ		並
<u>5 いちご (本ぼ)</u>		
(1) うどんこ病		並
(2) 炭疽病		並
(3) ハダニ類		やや多
<u>6 茶</u>		
(1) カンザワハダニ		やや少
(2) ツマグロアオカスミカメ		並
(3) チュウゴクアミガサハゴロモの防除対策		

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

令和 8 年度病害虫発生予報第 7 号（1 1 月予報）

令和 8 年 1 0 月 2 7 日
埼玉県病害虫防除所

1 麦類の播種前防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
コムギ なまぐさ 黒穂病	・ 種子伝染するため、種子更新を行うとともに種子消毒を実施する。 ・ 土壌伝染する場合もあるため、前作で発生したほ場では作付けを控える。 ・ オオムギとコムギでは、なまぐさ黒穂病の病原菌が異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
黒節病	・ 「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に、適期防除を実施する。 ・ 自家採種種子を使用する場合は、必ず種子消毒し、播種適期内で播種時期を遅らせる。
縞萎縮病	・ 播種後の土壌水分が多く、地温が高いと感染が増大するため、排水対策を実施し、播種適期内で播種を遅らせる。 ・ オオムギとコムギでは、縞萎縮病の病原ウイルスが異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
オオムギ 斑葉病	・ 発生後に使用できる薬剤はないため、播種前に種子消毒を実施する。 ・ 遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。
シロトビムシ 類	・ 発生後に使用できる薬剤はないため、常発地では、播種前に種子消毒を実施する。 ・ 遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。 ・ 有機質肥料（米ぬか、油粕等）の施用は、種子への加害低減に有効であることから、基肥としての使用を検討する。

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

2 きゅうり（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	多	○10 月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。
褐斑病	多	○10 月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。
退緑黄化病	並	○10 月中旬の発生量：並 □11 月のコナジラミ類の発生量は並と予想（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。
黄化えそ病	やや少	○10 月中旬の発生量：やや少 □11 月のアザミウマ類の発生量は並と予想（±）	
コナジラミ類	並	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は退緑黄化病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・次作に持ち越さないように防除を徹底する。
アザミウマ類	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は黄化えそ病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・次作に持ち越さないように防除を徹底する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

3 ブロッコリー

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	やや多	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
ハスモン ヨトウ	多	○10 月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、幼虫の若齢期に薬剤散布を行う。
シロイチモジ ヨトウ	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、幼虫の若齢期に薬剤散布を行う。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	
黒斑病	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
べと病	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	
軟腐病	やや多	○10 月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・多肥栽培では、発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジ ヨトウ	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギ アザミウマ	やや多	○10 月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
ネギ ハモグリバエ	並	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 いちご（本ぽ）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
炭疽病	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・被害株は抜き取って適切に処分する。
ハダニ類	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・保温開始前後（ミツバチ等導入前）に防除を徹底する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 茶

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
カンザワハダニ	やや少	○10月中旬の発生量：無 □県予察は場の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・この時期（11月）の薬剤防除は、越冬虫密度を下げる効果がある。
ツマグロアオカミカメ	並	○10月中旬の発生量：散見 □県予察は場の発生量：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・常発園や多発した園では、産卵のために成虫が茶園に再飛来する10～11月に防除を行う。越冬卵密度が低下し、翌年一番茶芽の被害軽減効果がある。
チュウゴクアミガサハゴロモ			・10月16日発表の病害虫防除情報（ 参照3 ）を参考に防除対策を実施する。 ・産卵された枝は秋整枝の際に切除する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照3：病害虫防除情報「チュウゴクアミガサハゴロモの防除について」（令和8年10月16日）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20261016.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.aff.go.jp/>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和8年10月22日発表)

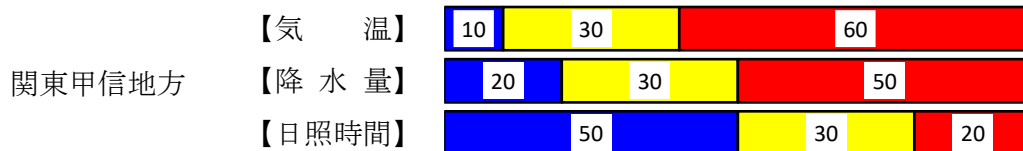
出典: 気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html)

<予報のポイント>

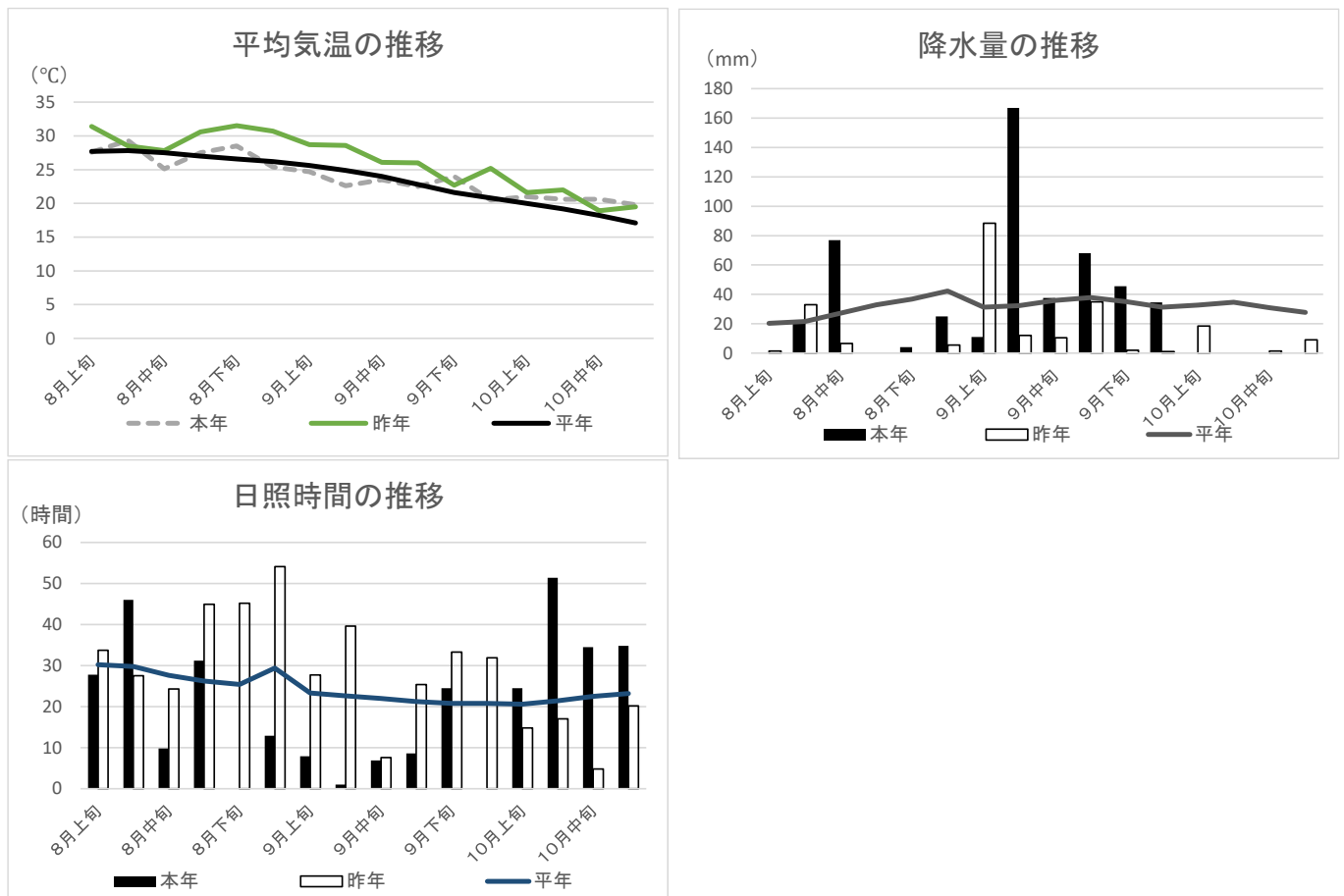
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先

埼玉県病虫害防除所

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784

電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663

E-mail: k3603114@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>